

(19)日本国特許庁(JP)

(12)特許公報(B2)

(11)特許番号
特許第7367184号
(P7367184)

(45)発行日 令和5年10月23日(2023.10.23)

(24)登録日 令和5年10月13日(2023.10.13)

(51)国際特許分類 F I
 B 6 2 J 9/14 (2020.01) B 6 2 J 9/14
 B 6 2 J 1/12 (2006.01) B 6 2 J 1/12 A

請求項の数 4 (全15頁)

(21)出願番号	特願2022-511571(P2022-511571)	(73)特許権者	000005326 本田技研工業株式会社 東京都港区南青山二丁目1番1号
(86)(22)出願日	令和3年1月25日(2021.1.25)	(74)代理人	110001081 弁理士法人クシブチ国際特許事務所
(86)国際出願番号	PCT/JP2021/002488	(72)発明者	大石 健一 東京都港区南青山二丁目1番1号 本田 技研工業株式会社内
(87)国際公開番号	WO2021/199615	(72)発明者	渡邊 将司 東京都港区南青山二丁目1番1号 本田 技研工業株式会社内
(87)国際公開日	令和3年10月7日(2021.10.7)	審査官	三宅 龍平
審査請求日	令和4年7月29日(2022.7.29)		
(31)優先権主張番号	特願2020-62624(P2020-62624)		
(32)優先日	令和2年3月31日(2020.3.31)		
(33)優先権主張国・地域又は機関	日本国(JP)		

最終頁に続く

(54)【発明の名称】 鞍乗り型車両

(57)【特許請求の範囲】

【請求項1】

シート(16, 136)を閉じた状態で、前記シート(16, 136)の裏側のシート裏収納空間(91, 131)と、車体における前記シート(16, 136)の下方のシート下収納空間(92)とが空間的に連続する収納スペース(93, 133)を備える鞍乗り型車両において、

前記シート(16, 136)を閉じた状態で、前記シート裏収納空間(91, 131)は、前記シート下収納空間(92)よりも車両外側に位置する外側空間(94, 134)を備え、

前記シート(16, 136)は、ヒンジ(85)を介して車体側に開閉可能に取付けられ、前記外側空間(94, 134)は、少なくとも一部が前記ヒンジ(85)の上方に設けられ、

前記外側空間(94, 134)は、前記シート(16, 136)に備えるシート基材(81)の端部に設けられる周壁部(81e)と、前記周壁部(81e)の下端から前記シート下収納空間(92)の上部に設けられた開口部(44a)の縁部(44q)の上方まで延びる底壁部(81g)とから形成され、前記底壁部(81g)に、前記ヒンジ(85)を構成するヒンジ部材(107)が設けられ、

前記ヒンジ部材(107)は、前記底壁部(81g)の下面に複数の締結部材(108, 109)により取付けられ、前記底壁部(81g)の上面に複数の前記締結部材(108)を支持する複数のリブ(81m)が設けられ、複数の前記リブ(81m)の間の空間

10

20

(95)は、前記シート下収納空間(92)よりも車両外側に位置し、前記外側空間(94, 134)の一部を構成することを特徴とする鞍乗り型車両。

【請求項2】

前記シート(16, 136)は、前記シート(16, 136)の骨格を構成する前記シート基材(81)と、前記シート基材(81)の外側に設けられた表皮部材(83)とを備え、前記外側空間(94, 134)は、前記シート(16, 136)の裏側における前部に設けられ、前記シート(16, 136)の上部及び側部には、前記シート基材(81)と前記表皮部材(83)との間に前記シート基材(81)よりも高いクッション性を有するクッション部材(82)を備え、前記シート(16, 136)の前部には、前記シート基材(81)の外側の面に直接に前記表皮部材(83)が設けられることを特徴とする請求項1記載の鞍乗り型車両。

10

【請求項3】

前記外側空間(94, 134)は、前記収納スペース(93, 133)にヘルメット(88)を収納した場合に、前記ヘルメット(88)に備えるディフューザー(88b)を複数の前記リブ(81m)の間の空間(95)に収納可能であることを特徴とする請求項1または2に記載の鞍乗り型車両。

【請求項4】

前記シート下収納空間(92)は、車体側に配置された収納ボックス(44)内に形成され、前記ヒンジ(85)のヒンジ軸(101)は、前記収納ボックス(44)の上部に設けられた前記開口部(44a)の前記縁部(44q)よりも下方に配置されることを特徴とする請求項1から3のいずれか一項に記載の鞍乗り型車両。

20

【請求項5】

(削除)

【請求項6】

(削除)

【請求項7】

(削除)

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、鞍乗り型車両に関する。

30

【背景技術】

【0002】

従来、スクーター型の鞍乗り型車両では、シート下に収納ボックスを配置し、シート裏側の空間と収納ボックスとで収納スペースを形成している(例えば、特許文献1参照)。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0003】

【文献】特開2001-213373号公報

【発明の概要】

40

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

上記した鞍乗り型車両の車両積載性を向上するために、シート下の空間を有効活用して収納スペースをより大きくすることが望まれる。

また、上記した鞍乗り型車両には、収納スペースの後方に燃料タンク等の重量物を配置したものがあり、重量物をできるだけ車両中心に配置するために、収納スペースをより車両前方に配置することが望まれる。

本発明の目的は、シート下の収納スペースを有効活用し、収納スペースをより大きくするとともに、収納スペースを車両前方寄りに配置することが可能な鞍乗り型車両を提供することにある。

50

【課題を解決するための手段】

【0005】

この明細書には、2020年3月31日に出願された日本国特許出願・特願2020-062624の全ての内容が含まれる。

鞍乗り型車両は、シート(16, 136)を閉じた状態で、前記シート(16, 136)の裏側のシート裏収納空間(91, 131)と、車体における前記シート(16, 136)の下方のシート下収納空間(92)とが空間的に連続する収納スペース(93, 133)を備える鞍乗り型車両において、前記シート(16, 136)を閉じた状態で、前記シート裏収納空間(91, 131)は、前記シート下収納空間(92)よりも車両外側に位置する外側空間(94, 134)を備えることを特徴とする。

10

【0006】

上記構成において、前記シート(16, 136)は、ヒンジ(85)を介して車体側に開閉可能に取付けられ、前記外側空間(94, 134)は、少なくとも一部が前記ヒンジ(85)の上方に設けられても良い。

【0007】

また、上記構成において、前記外側空間(94, 134)は、前記シート(16, 136)に備えるシート基材(81)の端部に設けられる周壁部(81e)と、周壁部(81e)の下端から前記シート下収納空間(92)の上部に設けられた開口部(44a)の縁部(44q)の上方まで延びる底壁部(81g)とから形成され、前記底壁部(81g)に、前記ヒンジ(85)を構成するヒンジ部材(107)が設けられても良い。

20

【0008】

また、上記構成において、前記ヒンジ部材(107)は、前記底壁部(81g)の下面に複数の締結部材(108, 109)により取付けられ、前記底壁部(81g)の上面に複数の前記締結部材(108)を支持する複数のリブ(81m)が設けられ、複数の前記リブ(81m)の間の空間(95)は、前記シート下収納空間(92)よりも車両外側に位置し、前記外側空間(94, 134)の一部を構成しても良い。

【0009】

また、上記構成において、前記シート(16, 136)は、前記シート(16, 136)の骨格を構成するシート基材(81)と、前記シート基材(81)の外側に設けられた表皮部材(83)とを備え、前記外側空間(94, 134)は、前記シート(16, 136)の裏側における前部に設けられ、前記シート(16, 136)の上部及び側部には、前記シート基材(81)と前記表皮部材(83)との間に前記シート基材(83)よりも高いクッション性を有するクッション部材(82)を備え、前記シート(16, 136)の前部には、前記シート基材(81)の外側の面に直接に前記表皮部材(82)が設けられても良い。

30

【0010】

また、上記構成において、前記外側空間(94, 134)は、前記収納スペース(93, 133)にヘルメット(88)を収納した場合に、前記ヘルメット(88)に備えるディスプレイ(88b)を複数の前記リブ(81m)の間の空間(95)に収納可能であっても良い。

40

また、上記構成において、前記シート下収納空間(92)は、車体側に配置された収納ボックス(44)内に形成され、前記ヒンジ(85)のヒンジ軸(101)は、前記収納ボックス(44)の上部に設けられた開口部(44a)の縁部(44q)よりも下方に配置されても良い。

【発明の効果】

【0011】

鞍乗り型車両は、シートを閉じた状態で、シート裏収納空間は、シート下収納空間よりも車両外側に位置する外側空間を備えるので、シート下の収納スペースを有効活用し、収納スペースをより大きくするとともに、収納スペースを車両前方寄りに配置することができる。

50

【 0 0 1 2 】

上記構成において、シートは、ヒンジを介して車体側に開閉可能に取付けられ、外側空間は、少なくとも一部がヒンジの上方に設けられるので、ヒンジも、より外側に配置されるため、シートの開閉時に、収納スペースへの干渉を防止又は抑制できる。また、少なくともヒンジの上方のスペースを有効活用できる。

【 0 0 1 3 】

また、上記構成において、外側空間は、シートに備えるシート基材の端部に設けられる周壁部と、周壁部の下端からシート下収納空間の上部に設けられた開口部の縁部の上方まで延びる底壁部とから形成され、底壁部に、ヒンジを構成するヒンジ部材が設けられるので、特別にヒンジ部材を設ける部位をシート基材に設けなくて済み、シート基材をより単純な形状にできる。

10

【 0 0 1 4 】

また、上記構成において、ヒンジ部材は、底壁部の下面に複数の締結部材により取付けられ、底壁部の上面に締結部材を支持する複数のリブが設けられ、複数のリブの間の空間は、シート下収納空間よりも車両外側に位置し、外側空間の一部を構成するので、底壁部を複数のリブで補強できるとともに、複数のリブが収納スペースを狭めることがなく、収納スペースの容量を確保することができる。

【 0 0 1 5 】

また、上記構成において、シートは、シートの骨格を構成するシート基材と、シート基材の外側に設けられた表皮部材とを備え、外側空間は、シートの裏側における前部に設けられ、シートの上部及び側部には、シート基材と表皮部材との間にシート基材よりも高いクッション性を有するクッション部材を備え、シートの前部には、シート基材の外側の面に直接に表皮部材が設けられるので、乗員がシートに着座した際のクッション性を損なうことなしに、収納スペースを大きくできるとともにクッション部材を減らしてコストを削減できる。

20

【 0 0 1 6 】

また、上記構成において、外側空間は、収納スペースにヘルメットを収納した場合に、ヘルメットに備えるディフューザーを複数のリブの間の空間に収納可能であるので、ヘルメットを収納する場合、ヘルメットのディフューザーをより車両外側に収納することができるため、シート下の収納スペースを有効活用することができ、これによって、より多くの収納物を収納するスペースを確保できる。

30

【 0 0 1 7 】

また、上記構成において、シート下収納空間は、車体側に配置された収納ボックス内に形成され、ヒンジのヒンジ軸は、収納ボックスの上部に設けられた開口部の縁部よりも下方に配置されるので、シートを開けたときに、シートの一部が外側空間内の収納物に干渉するのを防止できる。

【 図面の簡単な説明 】

【 0 0 1 8 】

【 図 1 】 図 1 は、本発明の第 1 実施形態の自動二輪車を示す左側面図である。

【 図 2 】 図 2 は、収納ボックス及びその周囲を車幅方向中央を通過して前後方向に縦に切断した断面図である。

40

【 図 3 】 図 3 は、シート基材の下面を示す斜視図である。

【 図 4 】 図 4 は、収納ボックスの大収納部にヘルメットを収納した状態を示す断面図である。

【 図 5 】 図 5 は、図 4 の要部を示す拡大図である。

【 図 6 】 図 6 は、図 2 の要部を示す拡大図である。

【 図 7 】 図 7 は、収納ボックス及びその周囲を示す斜視図である。

【 図 8 】 図 8 は、収納ボックスを示す平面図である。

【 図 9 】 図 9 は、ヒンジ及びその周囲を示す斜視図である。

【 図 1 0 】 図 1 0 は、収納ボックスのボックス側ヒンジ部を説明する斜視図である。

50

【図 1 1】図 1 1 は、シートのシート側ヒンジを説明する斜視図である。

【図 1 2】図 1 2 は、シートの開閉時のヒンジを示す断面図である。

【図 1 3】図 1 3 は、シート裏収納空間、ボックス収納空間及びヒンジの平面視の位置関係を示す模式図である。

【図 1 4】図 1 4 は、本発明の第 2 実施形態の外側空間を示す模式図である。

【発明を実施するための形態】

【0019】

以下、図面を参照して本発明の各実施形態について説明する。なお、説明中、前後左右及び上下といった方向の記載は、特に記載がなければ車体に対する方向と同一とする。また、各図に示す符号 F R は車体前方を示し、符号 U P は車体上方を示し、符号 L H は車体左方を示している。

10

< 第 1 実施形態 >

図 1 は、本発明の第 1 実施形態の自動二輪車 1 0 を示す左側面図である。

自動二輪車 1 0 は、車体フレーム 1 1 の前端部にフロントフォーク 1 2 を介して前輪 1 3 が支持され、車体フレーム 1 1 の下部にパワーユニット 1 4 を介して後輪 1 5 が支持されている。

自動二輪車 1 0 は、車体フレーム 1 1 の上方に配置されたシート 1 6 に跨って乗車する鞍乗り型車両である。

【0020】

車体フレーム 1 1 は、ヘッドパイプ 1 8、左右一对のダウンフレーム 1 9 A、左右一对のロアフレーム 1 9 B、センターフレーム 2 0、左右一对のリアフレーム 2 1、左右一对のフロアフレーム 2 2 を備える。

20

【0021】

シート 1 6 は、運転者が座る前側シート 1 6 a と、同乗者が座る後側シート 1 6 b とを備える。シート 1 6 の下方には、左右のリアフレーム 2 1 に支持された収納ボックス 4 4 が配置されている。また、収納ボックス 4 4 の下方及び後方には、車体フレーム 1 1 に支持された燃料タンク 9 7 が配置されている。

収納ボックス 4 4 の上端部には開口部 4 4 a (図 2 参照) が設けられ、この開口部 4 4 a は、収納ボックス 4 4 の前端部に揺動可能に取付けられたシート 1 6 によって開放又は閉塞される。

30

【0022】

図 2 は、シート 1 6、収納ボックス 4 4 及びその周囲を車幅方向中央を通過して前後方向に縦に切断した断面図である。

シート 1 6 は、シート 1 6 の骨格を構成するシート基材 8 1 と、シート基材 8 1 の表側の面である上面 8 1 a に配置されたクッション部材 8 2 と、クッション部材 8 2 を上方から包み込んで周縁部がシート基材 8 1 の周縁部に固定された表皮部材 8 3 とから構成される。シート 1 6 は、収納ボックス 4 4 の前端部にヒンジ 8 5 を介して開閉可能に支持され、収納ボックス 4 4 の上部に設けられた開口部 4 4 a を開放又は閉塞する。

【0023】

収納ボックス 4 4 は、シート 1 6 に上方から覆われるように配置され、パワーユニット 1 4 (図 1 参照) に備えるエンジン 3 5 (図 1 参照) の上方に配置された本体部 4 4 b と、本体部 4 4 b の後端部から後方に延びる延長部 4 4 c とを一体に備える。

40

本体部 4 4 b は、収納物としてのヘルメット 8 8 (図 3 参照) 等の大物を収納可能な大収納部 4 4 d と、大収納部 4 4 d の後方に配置されて小物を収納可能な上下に扁平な小収納部 4 4 e とを備える。小収納部 4 4 e は、燃料タンク 9 7 を上方から覆う。

延長部 4 4 c は、燃料タンク 9 7 を上方から覆い、延長部 4 4 c の後部には、工具等を収納可能な小物収納部 4 4 f が設けられている。

【0024】

シート 1 6 は、シート基材 8 1 の裏側の面である上方向に凹形状の下面 8 1 b によって出来るシート裏収納空間 9 1 を備える。また、収納ボックス 4 4 は、その平面視での輪郭

50

を形成する全周縁から下方に凹んだ部分で出来るシート下収納空間としてのボックス収納空間 9 2 を備える。

シート 1 6 を閉じた状態では、シート裏収納空間 9 1 の下方にボックス収納空間 9 2 が配置され、シート裏収納空間 9 1 とボックス収納空間 9 2 とは、空間的に連続する収納スペース 9 3 を形成する。シート裏収納空間 9 1 とボックス収納空間 9 2 とは、部分的に重複しても良い。

【 0 0 2 5 】

図 3 は、シート基材 8 1 の下面 8 1 b を示す斜視図、図 4 は、収納ボックス 4 4 の大収納部 4 4 d にヘルメット 8 8 を収納した状態を示す断面図、図 5 は、図 4 の要部を示す拡大図である。

図 3 及び図 4 に示すように、シート基材 8 1 は、上部を構成する上壁部 8 1 c と、上壁部 8 1 c の前縁、左右の側縁及び後縁から下方に延びて周方向に連続するように形成されたシート基材周壁部 8 1 d とを一体に備える。

シート基材周壁部 8 1 d は、上壁部 8 1 c の前縁から下方に延びる周壁部としての前周壁部 8 1 e と、上壁部 8 1 c の左右の側縁からそれぞれ下方に延びる左右一对の側部周壁部 8 1 f とを備える。前周壁部 8 1 e にはクッション部材 8 2 (図 2 参照) が設けられず、前周壁部 8 1 e に表皮部材 8 3 (図 2 参照) が隣接する、又は前周壁部 8 1 e には上壁部 8 1 c 及び側部周壁部 8 1 f よりもクッション部材 8 2 が薄く設けられる。

【 0 0 2 6 】

大収納部 4 4 d は、底部となる底壁部 4 4 g と、底壁部 4 4 g の前縁、左右の側縁及び後縁から立ち上げられて周方向に連続するように形成されたボックス周壁部 4 4 h とを一体に備える。

ボックス周壁部 4 4 h は、底壁部 4 4 g の前縁から立ち上げられた縦壁としての前周壁部 4 4 j と、底壁部 4 4 g の左右の側縁から立ち上げられた側部周壁部 4 4 k とを備え、前周壁部 4 4 j の前面 4 4 m の上部であって車幅方向中央にヒンジ 8 5 を構成するボックス側ヒンジ部 4 4 n が一体に形成されている。

【 0 0 2 7 】

大収納部 4 4 d には、収納物としてヘルメット 8 8 を収納可能である。ヘルメット 8 8 の後部には、ヘルメット 8 8 内に入り込んだ空気を外部に排出して拡散させるディフューザー 8 8 b が設けられる。

ヘルメット 8 8 は、後部が前方に向けて大収納部 4 4 d に収納され、ディフューザー 8 8 b は、ヒンジ 8 5 の上方に位置する。

【 0 0 2 8 】

図 5 に示すように、ボックス側ヒンジ部 4 4 n は、ヒンジ 8 5 を構成するヒンジ軸 1 0 1 が挿入されるヒンジ軸挿通穴 4 4 p が車幅方向に延びるように開けられている。

シート基材 8 1 は、前周壁部 8 1 e の下部から収納ボックス 4 4 の開口部 4 4 a の縁部 4 4 q の上方まで延びる底壁部としての前底壁部 8 1 g を一体に備える。

【 0 0 2 9 】

前底壁部 8 1 g の後縁部 8 1 h には、下方に開放する環状溝 8 1 j が形成され、環状溝 8 1 j にラバー等の弾性部材で構成されるシール部材 1 0 3 が嵌められている。シート 1 6 を閉じた状態では、シール部材 1 0 3 は、その下部が開口部 4 4 a の縁部 4 4 q に当たって撓み、収納ボックス 4 4 とシート基材 8 1 との間が密封される。

前底壁部 8 1 g の下面 8 1 k には、ヒンジ 8 5 を構成するヒンジ部材としてのシート側ヒンジ 1 0 7 が、前底壁部 8 1 g に設けられた複数のボルト 1 0 8 と、複数のボルト 1 0 8 にそれぞれねじ結合される複数のナット 1 0 9 とで前底壁部 8 1 g に取付けられている。

【 0 0 3 0 】

ヒンジ 8 5 は、上記したボックス側ヒンジ部 4 4 n と、シート側ヒンジ 1 0 7 と、ヒンジ軸 1 0 1 とから構成される。

上記したボルト 1 0 8 は、詳しくは、前周壁部 8 1 e から外側空間 9 4 内に突出する左右一对の縦リブ 8 1 m (図 1 1 も参照) と前底壁部 8 1 g とに埋め込まれている。左右の

10

20

30

40

50

縦リブ 8 1 m は、前周壁部 8 1 e と前底壁部 8 1 g の上面 8 1 n とに一体に形成され、上下方向に延びている。ボルト 1 0 8 は、前底壁部 8 1 g 及び縦リブ 8 1 m に支持されている。

【 0 0 3 1 】

開口部 4 4 a の縁部 4 4 q において、前周壁部 4 4 j の内面 4 4 r 側の角部 4 4 t から上方に鉛直に鉛直面 1 0 5 (二点鎖線で示した部分である。) を延ばした場合に、ボックス収納空間 9 2 に対して鉛直面 1 0 5 よりも外側に外側空間 9 4 が形成される。外側空間 9 4 は、シート裏収納空間 9 1 に含まれる。即ち、前周壁部 4 4 j (詳しくは、内面 4 4 r) よりも前方に外側空間 9 4 が形成される。

ヘルメット 8 8 のディフューザー 8 8 b は、外側空間 9 4 (詳しくは、外側空間 9 4 内に配置された左右の縦リブ 8 1 m の間に形成されたリブ間空間 9 5) に配置されている。これにより、シート裏収納空間 9 1 に外側空間 9 4 が無い場合に比べて、ヘルメット 8 8 をより前方に配置できる。これにより、シート裏収納空間 9 1、ひいては収納スペース 9 3 を有効利用でき、収納スペース 9 3 に多くの収納物を収納可能となる。

10

【 0 0 3 2 】

図 6 は、図 2 の要部を示す拡大図であり、図 2 に示したシート 1 6 及び収納ボックス 4 4 の後部と、燃料タンク 9 7 の周囲とを示す図である。図 7 は、収納ボックス 4 4 及びその周囲を示す斜視図、図 8 は、収納ボックス 4 4 を示す平面図である。

図 6、図 7 及び図 8 に示すように、延長部 4 4 c は、前部に後開口部 4 4 u が形成され、後開口部 4 4 u から燃料タンク 9 7 の上部に設けられた給油口 9 7 a と、給油口 9 7 a を塞ぐ燃料キャップ 1 1 1 とが上方に露出する。

20

大収納部 4 4 d の前周壁部 4 4 j 及び左右の側部周壁部 4 4 k は、底壁部 4 4 g から上方に向かうにつれて次第に収納ボックス 4 4 の外側に広がるように形成されている。

【 0 0 3 3 】

図 9 は、ヒンジ 8 5 及びその周囲を示す斜視図、図 1 0 は、収納ボックス 4 4 のボックス側ヒンジ部 4 4 n を説明する斜視図、図 1 1 は、シート 1 6 のシート側ヒンジ 1 0 7 を説明する斜視図である。

図 9 及び図 1 0 に示すように、ボックス側ヒンジ部 4 4 n は、収納ボックス 4 4 の開口部 4 4 a の縁部 4 4 q よりも下方の位置で、収納ボックス 4 4 の前周壁部 4 4 j から一体に前方に突出するように形成されている。

30

【 0 0 3 4 】

ボックス側ヒンジ部 4 4 n は、ヒンジ軸挿通穴 4 4 p が開けられた筒部 4 5 f と、筒部 4 5 f の上部及び下部から前周壁部 4 4 j に延びる複数のリブ部 4 5 g とからなる。

開口部 4 4 a の縁部 4 4 q からは、下方に向かうにつれて次第にボックス周壁部 4 4 h から外側に離れるように延びる外周壁部 4 5 h が形成され、更に、外周壁部 4 5 h の下縁から外側に延びる外フランジ部 4 5 j が形成されている。

外フランジ部 4 5 j は、車幅方向中央で切り欠かれた切欠き部 4 5 k を備え、切欠き部 4 5 k の車幅方向内側にボックス側ヒンジ部 4 4 n が設けられる。

【 0 0 3 5 】

図 5、図 9 及び図 1 1 に示すように、シート側ヒンジ 1 0 7 は、金属製の板材から形成され、上壁 1 0 7 a、前壁 1 0 7 b、左右の側壁 1 0 7 c を備える。

40

上壁 1 0 7 a は、前底壁部 8 1 g に複数のボルト 1 0 8 及び複数のナット 1 0 9 で締結されている。前壁 1 0 7 b は、上壁 1 0 7 a の前縁から下方に折り曲げられた部分であり、車幅方向中央に縦に延びて後方に突出する補強のための凸状部 1 0 7 d を備える。

左右の側壁 1 0 7 c のそれぞれの下部には、ヒンジ軸 1 0 1 を通す軸挿通穴 1 0 7 e が開けられている。

【 0 0 3 6 】

図 1 2 は、シート 1 6 の開閉時のヒンジ 8 5 を示す断面図である。

シート 1 6 を閉じた状態 (二点鎖線で示す状態) から前方に開けると、シート 1 6 は、矢印で示すように、ヒンジ 8 5 のヒンジ軸 1 0 1 を中心にして回転する。詳しくは、前周

50

壁部 8 1 e、前底壁部 8 1 g、シート側ヒンジ 1 0 7 等が回転する。そして、シート側ヒンジ 1 0 7 が、ボックス側ヒンジ部 4 4 n の筒部 4 5 f から下方に突出するストッパ部 4 5 n の下端に当たって回転が停止する。

【 0 0 3 7 】

シート 1 6 を開ける前に外側空間 9 4 に配置されていたヘルメット 8 8 の突出部としてのディフューザー 8 8 b は、前底壁部 8 1 g の後縁部 8 1 h に最も接近していた。

しかし、ヒンジ軸 1 0 1 を、開口部 4 4 a の縁部 4 4 q よりも下方に配置したことで、後縁部 8 1 h は、その回転の軌跡 1 3 0 (破線で示した部分である。)で示すように、シート 1 6 を開けた直後から下降してヘルメット 8 8 から離れるため、ヘルメット 8 8 に干渉しない。

10

【 0 0 3 8 】

図 1 3 は、シート裏収納空間 9 1、ボックス収納空間 9 2 及びヒンジ 8 5 の平面視の位置関係を示す模式図である。

なお、ボックス収納空間 9 2 を実線で示し、シート裏収納空間 9 1 のうち、外側空間 9 4 をボックス収納空間 9 2 の前方に描かれた二点鎖線とで示す。

シート裏収納空間 9 1 の前端部には、ヒンジ 8 5 の上方に設けられた外側空間 9 4 が配置される。外側空間 9 4 は、ボックス収納空間 9 2 よりも収納ボックス 4 4 の外側、即ちボックス収納空間 9 2 よりも前方に設けられる。

このように、外側空間 9 4 を設けることで、外側空間 9 4 を有効活用して車両の収納スペース 9 3 をより大きくできる。

20

スクーター型の車両では、シート 1 6 の前方に空間が存在するため、シート 1 6 の前方に外側空間 9 4 及びヒンジ 8 5 を設けやすい。

【 0 0 3 9 】

上記図 4 に示したように、鞍乗り型車両としての自動二輪車 1 0 は、シート 1 6 を閉じた状態で、シート 1 6 の裏側のシート裏収納空間 9 1 と、車体におけるシート 1 6 の下方のボックス収納空間 9 2 とが空間的に連続する収納スペース 9 3 を備える。

シート 1 6 を閉じた状態で、シート裏収納空間 9 1 は、ボックス収納空間 9 2 よりも車両外側に位置する外側空間 9 4 を備える。

この構成によれば、シート下の収納スペース 9 3 を有効活用し、収納スペース 9 3 をより大きくするとともに、収納スペース 9 3 を車両前方寄りに配置することができる。

30

【 0 0 4 0 】

また、シート 1 6 は、ヒンジ 8 5 を介して車体側に開閉可能に取付けられ、外側空間 9 4 は、少なくとも一部がヒンジ 8 5 の上方に設けられる。

この構成によれば、ヒンジ 8 5 も、より外側に配置されるため、シートの開閉時に、収納スペースへの干渉を防止できる。また、少なくともヒンジ 8 5 の上方のスペースを有効活用できる。

【 0 0 4 1 】

また、図 5 に示したように、外側空間 9 4 は、シート 1 6 に備えるシート基材 8 1 の端部に設けられる前周壁部 8 1 e と、前周壁部 8 1 e の下端からボックス収納空間 9 2 の上部に形成された開口部 4 4 a の縁部 4 4 q の上方まで延びる前底壁部 8 1 g とから形成され、前底壁部 8 1 g に、ヒンジ 8 5 のシート 1 6 側の部分を構成するシート側ヒンジ 1 0 7 が設けられる。

40

この構成によれば、特別にシート側ヒンジ 1 0 7 を設ける部位をシート基材 8 1 に設けなくて済み、シート基材 8 1 をより単純な形状にできる。

【 0 0 4 2 】

また、シート側ヒンジ 1 0 7 は、前底壁部 8 1 g の下面に複数のボルト 1 0 8 ・ナット 1 0 9 により取付けられ、前底壁部 8 1 g の上面に複数のボルト 1 0 8 を支持する複数の縦リブ 8 1 m が設けられ、複数の縦リブ 8 1 m の間のリブ間空間 9 5 は、ボックス収納空間 9 2 よりも車両外側に位置し、外側空間 9 4 の一部を構成する。

この構成によれば、前底壁部 8 1 g を複数の縦リブ 8 1 m で補強できるとともに、複数

50

の縦リブ 8 1 m がボックス収納空間 9 2 を狭めることがなく、ボックス収納空間 9 2 の容量を確保することができる。

【 0 0 4 3 】

また、シート 1 6 は、シート 1 6 の骨格を構成するシート基材 8 1 と、シート基材 8 1 の外側に設けられた表皮部材 8 3 とを備え、外側空間 9 4 は、シート 1 6 の裏側における前部に設けられ、シート 1 6 の上部及び側部には、シート基材 8 1 と表皮部材 8 3 との間にシート基材 8 3 よりも高いクッション性を有するクッション部材 8 2 を備え、シート 1 6 の前部には、シート基材 8 1 の外側の面に直接に表皮部材 8 2 が設けられる。

この構成によれば、乗員がシート 1 6 に着座した際のクッション性を損なうことなしに、収納スペース 9 3 を大きくできるとともにクッション部材 8 2 を減らしてコストを削減できる。

10

【 0 0 4 4 】

また、外側空間 9 4 は、収納スペース 9 3 にヘルメット 8 8 を収納した場合に、ヘルメット 8 8 に備えるディフューザー 8 8 b を複数の縦リブ 8 1 m の間のリブ間空間 9 5 に収納可能である。

この構成によれば、ヘルメット 8 8 を収納する場合、ヘルメット 8 8 のディフューザー 8 8 b をより車両外側に収納することができるため、シート下の収納スペース 9 3 を有効活用することができ、これによって、より多くの収納物を収納するスペースを確保できる。

【 0 0 4 5 】

また、図 5 に示したように、ボックス収納空間 9 2 は、車体側に配置された収納ボックス 4 4 内に形成され、ヒンジ 8 5 のヒンジ軸 1 0 1 は、収納ボックス 4 4 の上部に設けられた開口部 4 4 a の縁部 4 4 q よりも下方に配置される。

20

この構成によれば、シート 1 6 を開けたときに、シート 1 6 の一部が外側空間 9 4 内の収納物に干渉するのを防止できる。

【 0 0 4 6 】

< 第 2 実施形態 >

図 1 4 は、本発明の第 2 実施形態の外側空間 1 3 4 を示す模式図である。

第 2 実施形態において、第 1 実施形態と同一構成については同一符号を付け、詳細説明は省略する。

収納ボックス 4 4 の後端部にはヒンジ 8 5 を介してシート 1 3 6 が開閉可能に支持されている。シート 1 3 6 は、そのシート基材の裏側の面である凹形状の下面によって出来るシート裏収納空間 1 3 1 を備える。なお、シート裏収納空間 1 3 1 を、ボックス収納空間 9 2 の周囲に描かれた二点鎖線で示す。

30

【 0 0 4 7 】

シート裏収納空間 1 3 1 は、ボックス収納空間 9 2 に対して前方、左右の側方及び後方に膨出する外側空間 1 3 4 を備える。シート裏収納空間 1 3 1 及びボックス収納空間 9 2 は、収納スペース 1 3 3 を構成する。

このように、外側空間 1 3 4 を設けることで、外側空間 1 3 4 を有効活用して車両の収納スペース 1 3 3 をより大きくできる。

なお、外側空間 1 3 4 を、ボックス収納空間 9 2 に対して左右の側方のみ、左右いずれかの側方のみ、後方のみ、又は前方及び後方だけに膨出するように設けても良く、これに伴って、ヒンジ 8 5 の上方に外側空間 1 3 4 が配置されるようにヒンジ 8 5 の位置を設定しても良い。

40

【 0 0 4 8 】

上述した実施形態は、あくまでも本発明の一態様を示すものであり、本発明の主旨を逸脱しない範囲で任意に変形及び応用が可能である。

例えば、外側空間 9 4 , 1 3 4 を、ヒンジ 8 5 の上方に設けたが、これに限らず、外側空間 9 4 , 1 3 4 を、ヒンジ 8 5 の上方以外のシート裏収納空間 9 1 , 1 3 1 に備えても良い。

また、本発明は、自動二輪車 1 0 に適用する場合に限らず、自動二輪車 1 0 以外も含む

50

鞍乗り型車両に適用可能である。

【符号の説明】

【0049】

10 自動二輪車（鞍乗り型車両）

16, 136 シート

44 収納ボックス

44a 開口部

44q 縁部

81 シート基材

81e 前周壁部（周壁部）

10

81g 前底壁部（底壁部）

81m 縦リブ（リブ）

82 クッション部材

83 表皮部材

85 ヒンジ

88 ヘルメット

88b ディフューザー

91, 131 シート裏収納空間

92 ボックス収納空間（シート下収納空間）

93, 133 収納スペース

20

94, 134 外側空間

95 リブ間空間（空間）

101 ヒンジ軸

107 シート側ヒンジ（ヒンジ部材）

108 ボルト（締結部材）

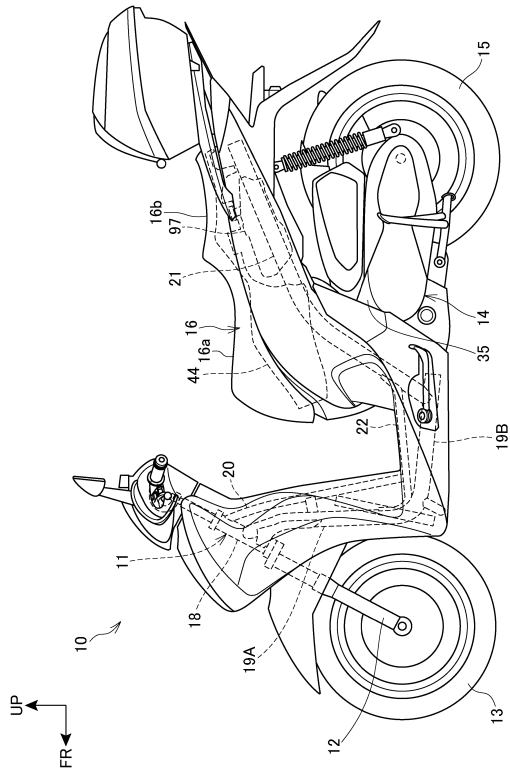
109 ナット（締結部材）

30

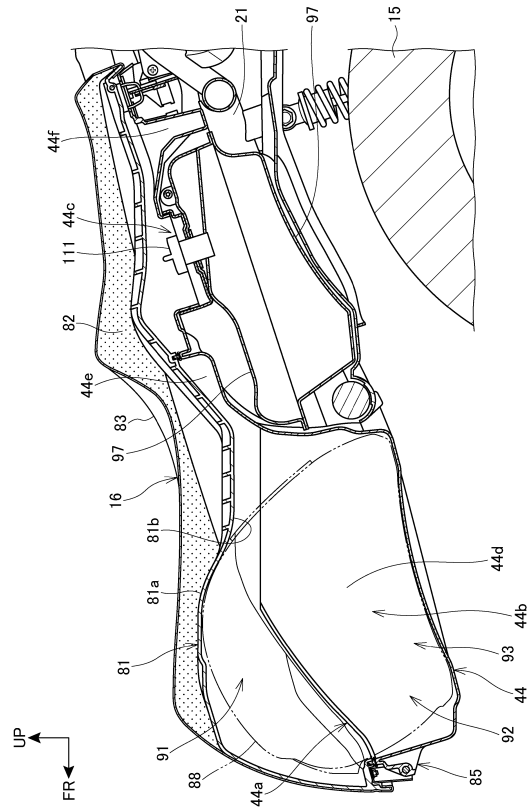
40

50

【図面】
【図 1】



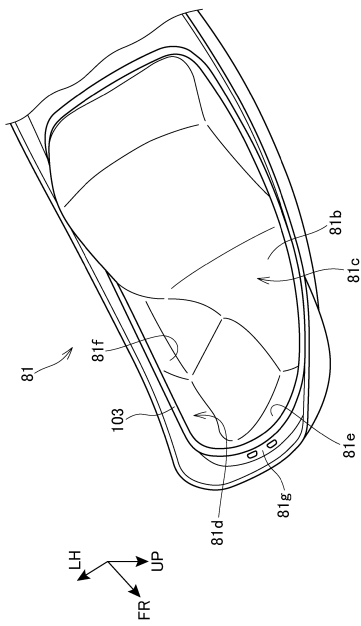
【図 2】



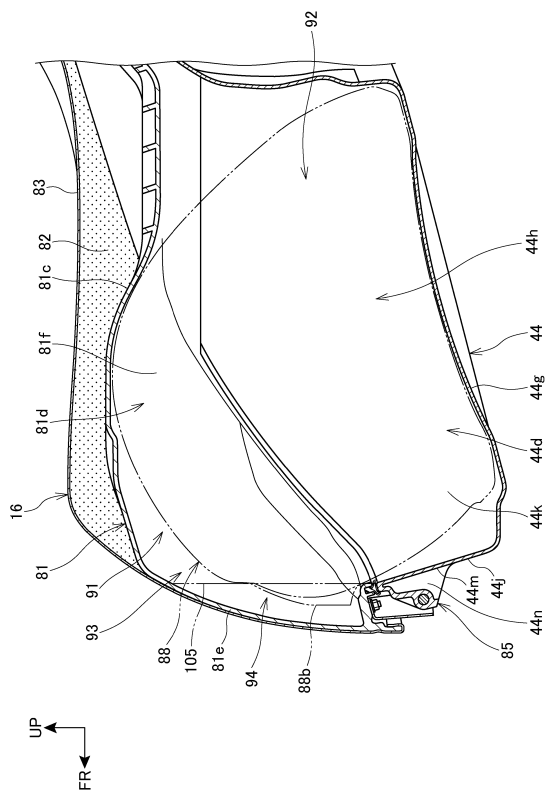
10

20

【図 3】



【図 4】

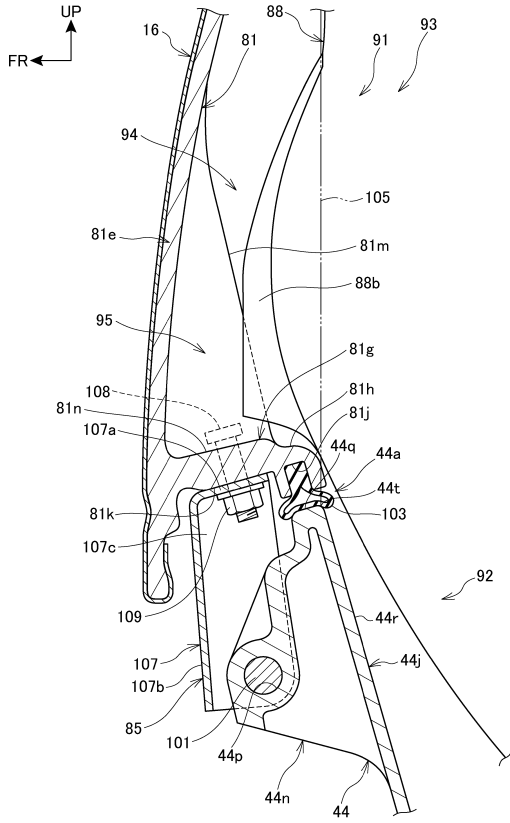


30

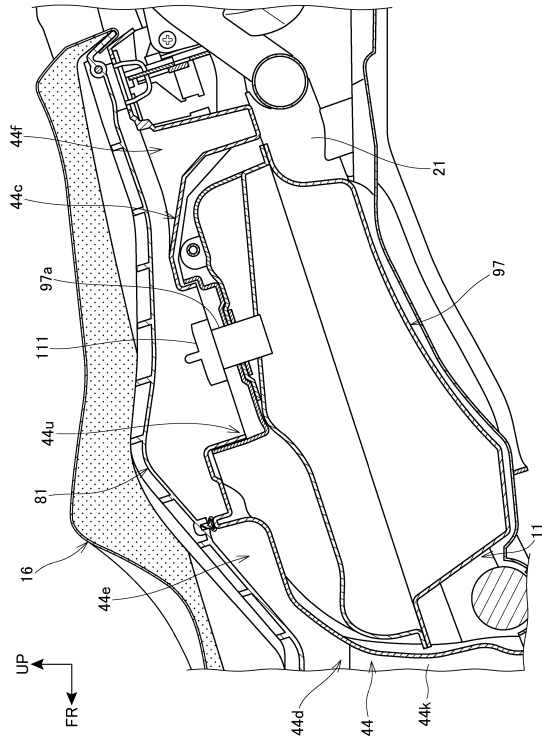
40

50

【 図 5 】



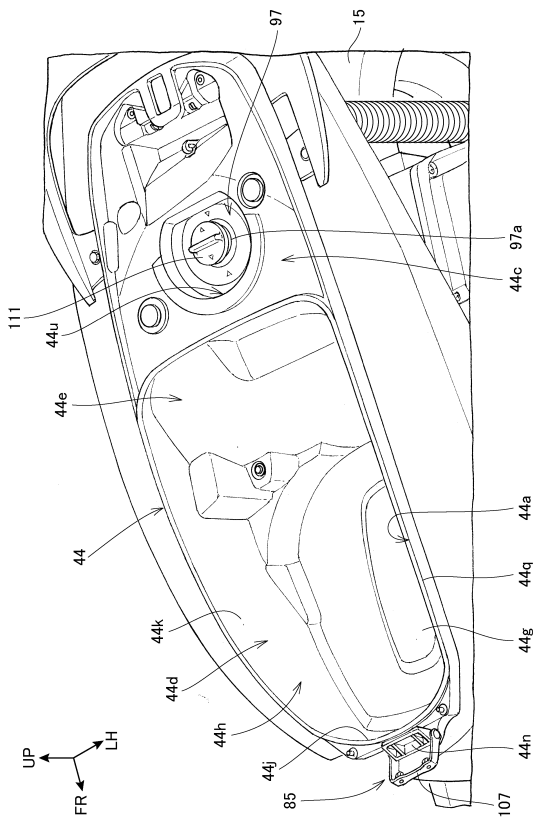
【 図 6 】



10

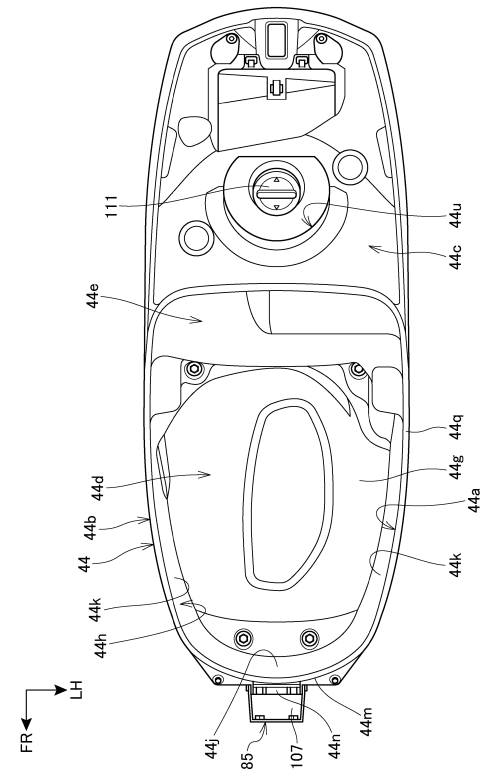
20

【 図 7 】



30

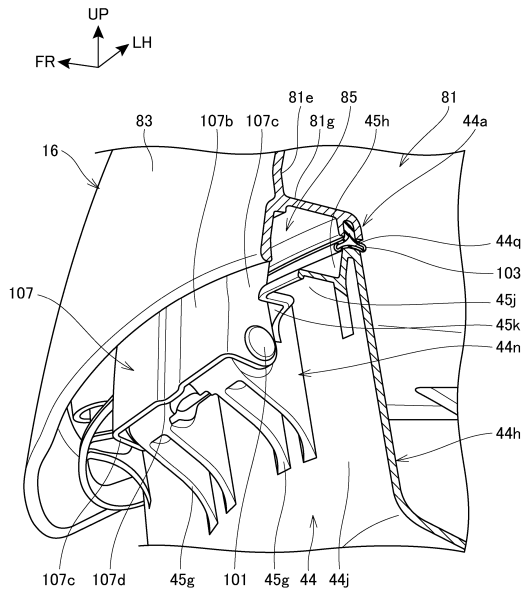
【 図 8 】



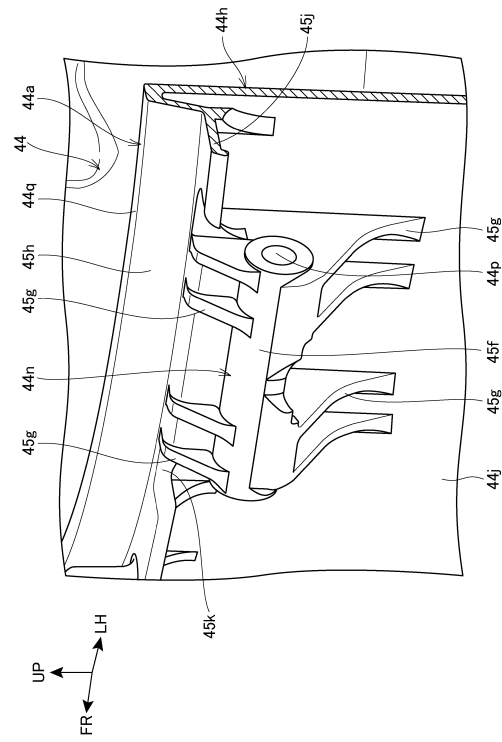
40

50

【 図 9 】



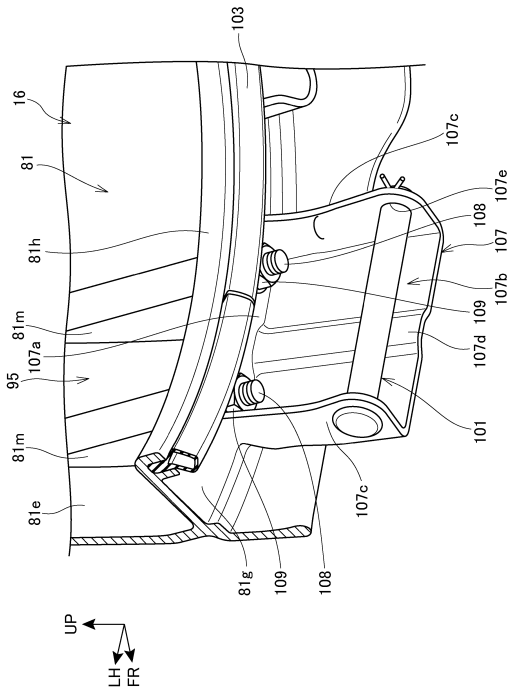
【 図 10 】



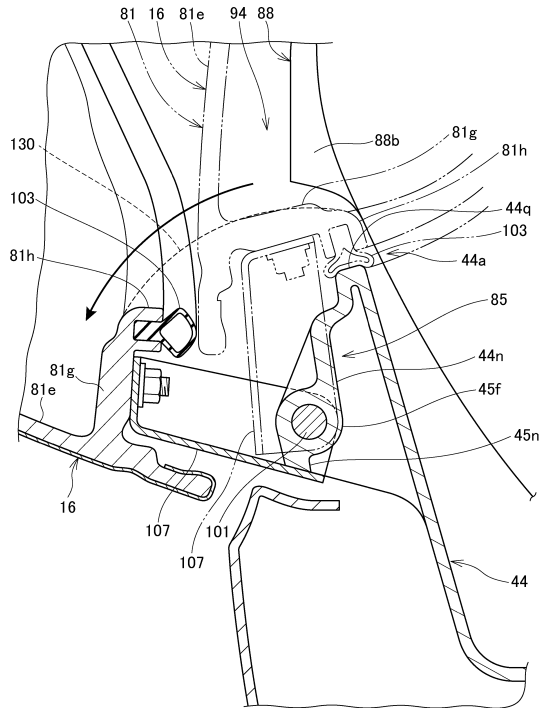
10

20

【 図 11 】



【 図 12 】

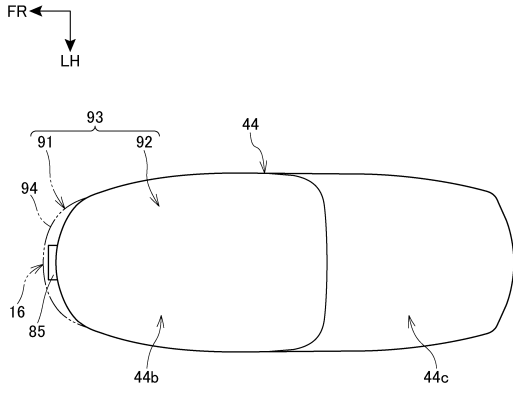


30

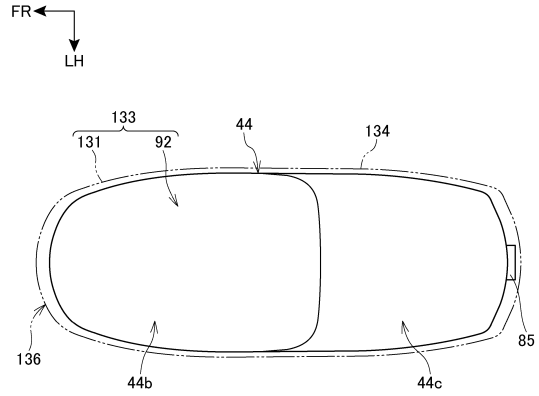
40

50

【 13 】



【 14 】



10

20

30

40

50

フロントページの続き

- (56)参考文献 特開 2 0 1 2 - 1 1 6 3 6 1 (J P , A)
特開 2 0 1 2 - 2 1 4 0 6 4 (J P , A)
特開 2 0 1 4 - 4 3 1 9 1 (J P , A)
- (58)調査した分野 (Int.Cl. , D B 名)
- B 6 2 J 9 / 1 4
B 6 2 J 1 / 1 2